

INFORMATION

【期間：平成26年】

第27回 Neuroscience Seminar 「新規創薬標的としての細胞内主要ATPase, VDP」

京都大学大学院 生命科学研究科・高次生体統御学分野 垣塚 彰 教授

平成26年9月11日(木) 18時30分～19時30分 金沢大学医学部F棟1階修士課程セミナー室

このたび、京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授の垣塚 彰先生をお招きしてセミナーを開催致します。垣塚先生は、神経科学の分野では遺伝性脊髄小脳変性症の原因遺伝子を発見され、ポリグルタミン病の概念を提唱された方としてご高名ですが、最近抗肥満・抗糖尿病作用をもつERRL1遺伝子の同定など、多方面で業績をあげられています。今回、学部学生の特別講義のために金沢にお越しいただく機会に御講演をお願いいたしました。大変興味深いお話を拝聴できるものと思います。どうぞお気軽に御参加ください。

Control of cortical development by the meninges

UCSFのSamuel Pleasure教授をお招きして脳細胞遺伝セミナーを開催。Pleasure教授は気鋭の神経幹細胞の若手研究者である。特に大脳形成期の神経幹細胞動態における髄膜の重要性を世界に先駆けて報告された。また海馬の神経幹細胞ニッチや細胞系譜の研究も幅広くされている。日本神経科学学会で来日される機会に、金沢でも御講演をして頂けることとなった。各研究室のスタッフはもちろんのこと、大学院生や学部学生にも広く開放して、最新の神経科学の研究成果を知る良い機会となる。

日時：2014年9月9日(火) 午後5時～6時

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

主催：金沢大学医学系脳細胞遺伝子学講座 TEL：076-265-2365 FAX：076-235-4274

脳・肝インターフェースメディシン研究センターシンポジウム

日時：9月11日(木) 午後4:30～5:30

場所：金沢大学附属病院4階 CPDセンター

特別講演 「How autophagy protects the liver from steatosis when apoB synthesis and VLDL secretion are inhibited」

Henry N. Ginsberg, M.D.

Irving Professor of Medicine / Director, Irving Institute for Clinical and Translational Research Columbia University

連絡先：脳・肝インターフェースメディシン研究センター 環境応答学部門 太田嗣人 (076-265-2863)

日本解剖学会第74回中部支部学術集会

会長：井関尚一（金沢大学医薬保健研究域医学系・組織発達構築学）

会期：平成26年10月11日(土)～12日(日)

会場：金沢大学医学類G棟講義室

概要：日本解剖学会は、120年以上の伝統を持つ学会であり、全国で約2500名の会員を擁する。約350名の会員を擁する中部支部の学術集会は、9県16校の医学部・歯学部を有する大学が持ち回りで毎年開催してすでに70年以上になり、肉眼解剖学、組織学から細胞・分子科学まで広い分野にわたる発表が行われる。

第4回MRTプログラム・リトリート

MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材（研究医）を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文講演会等に参加するものである。今回は第4回目のリトリートで今年度としては2回目となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。

日時：2014年10月28日(火) 午後5時～午後7時

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

主催：医学類教育委員会

「脳細胞遺伝セミナー」

糖鎖異常型筋ジストロフィーの病態と治療戦略

神戸大学の金川基先生をお招きして脳細胞遺伝セミナーを開催。金川先生は気鋭の神経疾患の若手研究者である。特に大脳形成期の髄膜の重要性を精力的に研究されている。金沢でも御講演をして頂けることとなった。各研究室のスタッフはもちろんのこと、大学院生や学部学生にも広く開放して、最新の神経科学の研究成果を知る良い機会となる。

場所：金沢大学F棟修士課程セミナー室

日時：2014年10月30日(木) 午後4時～6時

主催：金沢大学医学系脳細胞遺伝子学講座

TEL：076-265-2365 E-mail：kawasaki@med.kanazawa-u.ac.jp

第5回ヘルスケア・コーチング研究会

ビジネス界で人材育成や目標達成に使われている「コーチング」という手法は、医療や介護の現場にも広がってきました。コーチングでは、「現状の確認 → 目標設定 → 現状と目標のギャップの確認 → 行動計画の立案 → 実行と見守り → 振り返りとフォロー」という流れに従って、傾聴と質問を主体に本人の力を引出します。医療や介護の分野でコーチングは、疾病の保健指導のみならず、人材の育成や組織の目標達成、個人の成長にも応用できます。多くの人に医療・介護場面で使えるコーチングを知っていただくために、11月9日(日)の午前9時15分から午後1時まで富山県教育文化会館で、「ヘルスケア・コーチング研究会」を行います。医療関係者および介護関係者はどなたでも参加していただけますので、ご興味がおありの方は、ぜひ、ご参加ください。講演1：「コーチングの基礎の基礎 ～当たり前のカンタンなことから～」、ワークショップ1：「認めるスキルでモチベーションを高めよう」、ワークショップ2：「コーチング・スキル「使えるコーチングへの一歩 会話の組み立て方を知ろう」

脳・肝インターフェースメディシン研究センターセミナー /MRTプログラムセミナー

日時：11月10日(火) 午後4:30～6:30

場所：医学図書館2階十全記念スタジオ

演者1：Fawaz G. Haj, PhD Associate Professor, Department of Nutrition, University of California, Davis, U.S.A

タイトル：“Metabolic regulation by pancreatic protein tyrosine phosphatases”

演者2：Tzu-Ching Meng, PhD Research Fellow, Institute of Biological Chemistry, Academia Sinica, Taiwan

タイトル：“Novel role of dual specificity phosphatase-6 (DUSP6) in promoting endothelial inflammation”

連絡先：脳・肝インターフェースメディシン研究センター 環境応答学部門 長田直人 (076-234-4207)

第1回 北陸エピジェネティクス研究会

がんや生活習慣病、統合失調症といった現代を代表とする疾患の発症には、単純な遺伝子変異だけでなく、環境要因により変化し、遺伝子の発現に影響を及ぼす“エピジェネティクス”な機構がその発症に深く関わっていると考えられる。本研究会では、北陸三県の大学に所属するエピジェネティクスを専門とした研究者が集い、その研究成果を発表することで、継続的な研究交流ならびに共同研究の推進を図ることを目的とする。本年は、特別講演として近畿大学の佐渡敬教授と関西学院大学の関由行准教授を迎え、基礎的な“エピジェネティクス”現象の理解を深める。詳細は、下記にお問い合わせください。

日時：平成26年11月18日(火)～11月19日(水)

場所：金沢大学附属医学図書館 十全記念スタジオ

問い合わせ先：学際科学実験センター ゲノム機能解析分野 堀家慎一

TEL：076-265-2775, E-mail：sihorike@staff.kanazawa-u.ac.jp

International Symposium on Tumor Microenvironment---Crosstalk between host cells and malignant cells

日時：平成26年11月21日午後3時より(予定)

場所：金沢大学・自然研図書館・AVホール

内容：米国国立がん研究所のCancer and Inflammation Programのプログラム長であるGiorgio Trinchieri博士(IL-12の発見者として著名な研究者)をメイン・スピーカーとして招へいし、がん微小環境に関するシンポジウムを開催する予定である。その際に、がん微小環境に関連する研究に従事している、がん進展制御研究所ならびに医薬保健学総合研究科の4名の若手研究者にも研究内容を紹介していただく予定である。

主催：金沢大学がん進展制御研究所

共催：金沢大学医薬保健学総合研究科

日本学術振興会・二国間交流事業 「腸内細菌叢とケモカインとのクロストークによるがん病態制御機構の解明」

第3回金沢大学 子どものこころサミット

開催日：平成26年11月27日(木)～11月29日(土)※

開催場所：北國新聞 赤羽ホール(1階 北國新聞交流ホール)

世話人：金沢大学子どものこころの発達研究センター 東田陽博

子どもの発達障害に関する幅広い領域の専門家が集い、研究成果を発表すると共に、一般の方々に子どもの発達障害とその研究への理解を深めて頂く。

第3回目となる今回3日間のプログラムの特徴は、「新しい未来に向けて」。脳機能計測による発達障害診断技術開発、オキシトシン作用機序の最先端研究とオキシトシンによる自閉症治療の臨床研究や研究倫理などを取り上げます。

※詳細に関しては、Webで「第3回金沢大学 子どものこころサミット」と検索して下さい。